良いキャンペーン

good campaign

作・三橋亮太

《作品概要》

パンデミック以降、今ここではない場所への憧憬から土地と旅の話を繰り返し扱ってきた。

現在でも世界中では悲劇が止まらず、過ちが繰り返されている。日本では戦後８０年を迎えた。戦争や疫病、災害といった巨大な死の狭間で今日を生きる感覚として、これから生まれるかもしれない悲劇やすでに生まれた悲劇の超未来を想像したいと考えた。同時に「ダークツーリズム」「安楽死」といった現代において賛否両論ある重要なトピックについても取り上げることで、そこから考えられるプラスとマイナスの両面を捉えながら、悲劇の実体験とその風化を防ぐこと、トピックを消費する人々、ＳＮＳなどを通した二次消費など、顔の見えない人間による無責任な炎上など、現代社会における問題を自らの視点で描き、形にしたいと考えた。（３３４文字）

《あらすじ》

ある日本の街に大きな爆弾が落とされた。時間が経ち爪痕は「遺構」となった。やがて悲しみの伝承や記録を目的とした「ダークツーリズム」としてのツアーが実施されるようになる。土地に点在する遺構を巡るため、バスツアーも実施されるようになる。さらに長い時を経て街は土産物屋などが密集し、商業化された観光地へと変貌を遂げた。

かつてそのバスツアーで出会ったノア、フタバ、ファウナの三人は、ファウナの呼びかけで再会する。ファウナが二人に提案したのは、行きたい場所を全て巡る「ワールドツアー」だった。それはファウナが自身の人生に決着をつける目的を含んでいた。ファウナの五感は、触覚、嗅覚、味覚、視覚、聴覚がひとつずつ閉じ始めている。そのためファウナは完全に五感が閉じてしまう前に、人生に決着をつけたいと思っている。

そして物語は、三人が「ワールドツアー」の相談をする現在から、２７年前の記憶へと遡っていく。

（３９１文字）

《（主に）登場するキャラクター》

この戯曲の上演は5人の俳優で行うことを想定しており、
以下のように演じる役の配分をする

シーン① 2075年

1＝ノア、学生B
2＝フタバ
3＝ファウナ
4＝占い師（綴）、学生A
5＝占い助手、おーちゃん先輩

シーン② 2048年

1＝体験者、ノア
2＝フタバ、業者
3＝ファウナ
4＝イオリ
5＝アサヒ

《記号説明》

❶「」❶
❷「」❷
❸「」❸
❹「」❹

右のようにカラフルな「」で括られた箇所は、
直前の会話の中で新たに発生した会話やエピソードを示したものです。
モノクロで印刷した際には数字から確認をお願いします。

シーン⓪（２０２５年）

空間には、闇があるといい
闇とは暗く深い箇所であり、旅館で味わう夕方の空気に近い
起きた陰影は、空間に配置された道具に立体を与える
つまり私たちは、闇と光を同時に見ている

そのため、
たとえば、客席前方に限らず、後方にもアクティングエリアがあるかもしれない
その場合、俳優の声は観客の背面側からも聞こえる
その際の観客は、声の方向へ振り返ることをそれぞれの意思で選択ができるといい

時間

開演

1、登場

1　本日はご来場いただきありがとうございます。
開演に先立ちましてご案内申し上げます。
携帯電話、音や光の出る機器は電源からお切りください。
ペットボトルなどの蓋つきの飲み物でしたら飲んでいただいて構いません。
地震など「有事の際」はスタッフが案内いたしますので、その場にてお待ちください。
上演時間は約〇〇分を予定しております。途中休憩はございません。

1は空間を見渡す
空間に流れる空気を確認する
その後、深く息を吸い、喋り始める

1　〇月〇日（上演日）。

1は、再び息を吸い込む

シーン①（2075年）

1　聞いて欲しくて、美味しかった話ね。
うなぎ。うなぎっす。鰻重とかってどう？ 好きかな？
ま、そのお店の鰻重はね、結構ね、衝撃的な美味しさだったんだよね。
正直、店内の、雰囲気とかも趣があって、
だから、期待上がっちゃってたんだけど、そのハードルを余裕でひょいと飛び越えたんだよ。
むしろ、雰囲気で美味しさが倍増する、みたいなこともあると思うんだけどね、いや、そうじゃなく、
まず、うなぎがね、まずね、シンプルに美味い。柔らかくふっくら。脂も乗ってて、とろっと溶ける。
備長炭かな、それで焼くから外はちょいパリ。肉厚で食べ応えもある。
あとはもちろん、お米とタレ。これも完璧な仕上がりで、本当に美味い。
鰻重ってね、考えると、シンプルが故にね、全ての食材に相乗効果があるんだな〜って。
全ての食材がマジで欠かせない。そう思った。本当に美味しい。

2、登場している

2　それはさ、その鰻屋さんに行こうと思ってたの？ たまたま？
1　たまたまだったんだよね〜。だから、運命？
2　はい（ドリンクを1に二つ渡す）。
1　ありがとう。いくら？
2　いいいい。
1　え、なんでよ。
2　ちょっと遅れちゃったから。ごめんってこと。
1　ん〜。どうも〜（渡されたドリンクの一つを飲む）。
2　えーてかさ、最近鰻食べることないかも。
1　え〜、逆に？
2　そうね、ブームすぎちゃったかもな。
1　まだ鰻ばっかかも。正直。私。
2　えー。
1　こことかちゃっかり、名物になってるし。
2　ま、そだね。安いし。
1　てかあっちの、お煎餅屋さんの隣さ、串に刺さった玉子焼き売ってたけど、
あれも美味しそうだったね。
2　美味しいよあれ。

1　え～いいないいな。

2　おすすめはね、海鮮を焼いたやつ出してくれるとこなんだけど、

1　え、どこどこ。

2　お城側の、はちみつ屋さんの方。

1　あ～、そっちか。

2　ホタテ焼いたやつとか、美味しかったな。

1　絶対美味しいじゃん。

2　バター乗せてくれる。

1　最強かよ！

2　最強です。

1　これ（飲んでいるドリンク）はどこの？　美味しい。超冷たくてグッド。

2　あ、それはね、海側のちょっと外れた方にあるんだけど、

1　あ、この通りじゃないんだ。

2　そうそう。

1　ふえ～。てかこの城下町、距離すごい長いよね？

2　長いねー。海の方とお城までを結んでるからね。

1　すごいな～。このクオリティ高い街並みが横にながーいのも魅力なんだろうね。

2　そうね。でもやっぱね、路地入った方が名店多いよ。

1　あ～あるあるだね～。さすが地元民。

2　任せてくれい。

1　頼りなるわ～。

2　あのさ、いや、腹立ったんだけど、腹立ったっていうか、何？って話なんだけど、いい？

話全然変わっちゃうんだけど、

1　え、いいよ。

2　ありがとう。いや、今日さドローンタクシーで来たんだけどさ、

1　え～リッチ～。

2　いや急いでたからさ。

1　あ、うん。

2　ま、乗り場までさ、エレベーターで向かうじゃん。屋上だからさ。

1　うんうん。

2　エレベーター上から降りてくるでしょ。

降りてくる人もいるからさ、外でボタン押して待ってるじゃん。

1　そうだね。

2　全員降りて、いざ乗るぞってなった時にさ、「すみませーん」って。

1　え？

2　いやなんか、人が来たのよ。私より後に来て、そのままエレベーター乗りやがった人がいて。

1　え～。

2　器小さいかもだけどさ、「いや、それは違うくない？」って。すごい思った。

1　「あなたのために開けてるわけじゃないよ～。」だよね。

2　そう！　到着した時に「ひらく」を押してどうぞ～ってのはいいんだけどさ、

1　うんうん。

2　で、しかも、降りるときも、こっちが「ひらく」押してそのまま、その人降りてってさ、

1　え～いやだね。

2　もうさ、「ありがとう。」とか言ってくれたら許せたんだけどさ、それもないし、

　てか、そもそもその人めっちゃ変だったんだよね。

　なんかさ、髪も全部なくて、身体もカリカリというか、クシャクシャというか、

1　お年寄り？　おじいちゃん？

2　いや、ポテトのさ、すんごいしなしなのやつあるじゃん。最後の方に残ってるやつ。

1　うんわかる。

2　あれみたいな。

1　え？　あ、そう。

2　いや、そのさ、私的にも、そういう見た目のことをすごい、言いたいんじゃなくてさ、

1　うん。

2　いや、なんか、靴もボロボロだったんだけど、ていうかね、

　足に釘が貫通してたと思うのよ。下から。多分。

1　え、どゆこと。なに？（笑）

2　いや、ごめん。多分ね、そうなのよ。

1　でも歩いてるんでしょ？　そのしなしな？　カリカリの人は。

2　うん。

1　じゃあ元気なんじゃんか～？

2　まぁそうだよね。うん。

1　平気平気。なによ～。

2　そうだよねー。

1　え、元気？

2　え？

1　フタバはさ。

2　あ、うん元気元気。ノアは？　元気？

1　うん。すごい元気。ロングタイムノーシー。

2　ロングでーす。てーかさ、マジで超久しぶりだね。

1　ほんと、久しぶりに会うね～。ご機嫌ってこと？

2　うん、普段はね、ぜんぜんご機嫌だよ。

1　いいね～。や、ほんと、フタバに会うためにだよ。ほんと会いたくてさ。ね～？

3　（頷く）

3、登場している

1の近くに座り、ドリンクを持っている

2　マジであれから何年経った？

1　えっとバスツアーから２０年以上？

2　え、ほんと？

1　下手したら３０年近いんじゃないの。

2　やばすぎる。

ほんと、ノアたちが会いに来てくれて嬉しい。

1　いえ～い。

あれ、まだやってるの。バスツアーって。

2　やってないよー。もう随分前に終わっちゃった。

1　あ、そうなんだ。

2　そういう伝承する役割は、あの城の中にパンパンに詰まってるからさ。

1　役割終わったんだ。バス。

2　そうなのよ。

1　あ～。てかこんだけ街が盛り上がったら回るとこ残ってないか。

2　そうね、生の声を語れる人も街から減り始めたし。

1　あ～そうだよね。

2　ま、でも、映像でね録画してそれを展示してたりね。

1　え～すごい。お城で？

2　そうそう。当時さ、私たちにバスツアーで話してくれた人いたでしょ、イオリさん、

1　うん。イオリさん。バスガイドの。うん覚えてるよ。え？

2　その人、館長になってね、今あそこにいるのよ。

1　え～マジか。そうなんだ。偉くなってまぁ。

2　ちなみに私の担当した映像も二個目の展示室で見れるよ。

1　え、マジ。見たい。

2　え、全然大真面目なやつだからね。

1　なおさらなおさら。

2　真面目に見て？

1　見る見る～。

3　（手を挙げる）

1　ん、

3　私も見たかった。

1　そうだよね。
2　で、てか、どうしたの。
1　え。
2　いや、話あるって言ってたじゃん。
1　あ、うん。その通り。何を隠そう！
2　や、いいっていいって。
1　ま、先に言うと、私たちも最近会うようになったんだけど、
2　あ、そうなんだ。
1　4、5年前くらいかな。

約2070年／カフェ

❶「
3　久しぶり、ノア。
1　久しぶり〜。ロングタイムノーシー。びっくりしたよ連絡。
3　びっくりさせてごめん。会いたくてさ。
1　いや嬉しいよ。どしたのどしたの。
3　あのさ、実はさ、ノアがよかったらだけどさ、またツアーに行かない？
1　あ、爆心地の？ バスツアー？
3　あ、いや、ツアーっていうか、世界。の行きたいところ全部。
1　ワールドツアー？ ってこと？
3　ま そうだね。バスもだし、電車とか船とか飛行機とか全部使う。
1　あ〜、いいね。うん、いいよ。
3　え、ほんと？ いいの？
1　うん。いこいこ。
3　じゃあ、すぐ行こう。ありがとう。
」❶
2　ワールドツアー。世界旅行ってこと？ いいねー。
1　残り行くところはあと少しなんだけどさ、フタバも行こうよ。
2　え、私も？
1　そう。迎えにきたの。

約2070年／再びカフェ

❶「
3　ある一定の時代から懐かしさを感じることが減ったね。
それは、満足に感じられるテクノロジーはある程度頭打ちになってきて、

全ての再生される映像や画像が粗く無くなったからかな。
思い出は全て色褪せず記録されてしまう。
だからこそ、リアルな現在を噛み締めることに価値があるかをすごく考える。
1　そうかもね～。
3　知らない花の名前を知った時や、めっちゃドンビシャのご飯屋さんを見つけた時とかを
誰かと噛み締めたいね。噛み締めるべきかも。
だって、心が人と通った時の最高さは何にも変え難いし。
1　そうだね～。
3　だからね、私は、そういう素晴らしい体験の先で、死にたい。
1　素晴らしいけどさ、もったいなくないの？　死んじゃうの。
3　全然だよ。「良い死」を願うことは希望だと思うよ。や、怪しいか今の響きは。
いや、違くて、きっと、甘い眠りに入るような、
安らかで落ち着いた死に方や死に様が生きるのに大事だと思うんだよ。
あ、これも怪しいか。
1　そっか。

3　私今ね、感覚が閉じ始めてるの。
1　うん。
3　時間をかけて、一つずつ、五感が閉じていくの。
病名はあるけど、どっちかっていうと、そういう体質なんだって。決まってたんだって。
1　うん。
3　まずは、触覚がなくなるのね。触った感覚がなくなる。
手の届くそこに、何があるのか分からなくなる。皮膚で触れられるのに触れてないみたいだった。
気づいたら嗅覚も無くなって、直に味覚も無くなる。味も風味も感じない。
もう食べ物は、食感も温度も、分からない。
その次に、視覚が閉じて、目が見えなくなる。光も感じないから明るいのかも分からない。
最後に、聴覚が残る。音だけが聞こえる。そして、徐々にぼんやりしていって、聴覚も閉じる。
1　うん。
3　でもね、そうなる前に私は人生に決着をつけたいの。
1　決着を？
3　そう、今は視覚と聴覚があるけど、
最後に聴覚が閉じたら、全ての刺激が無くなって、内側の私だけの世界になる。
それは、寂しいし、つまらなそう。
だから最後の、聴覚が閉じる前にね、私は自分で、死のうと思う。
1　え、
3　大丈夫。ノアに私を殺して欲しいから連絡とったわけじゃなくて、

サポートしてくれるところが海外にあるらしいの。だいたいは薬を投与してもらう感じかな。
1　そうなんだ。
3　そう。日本でもそういう施設ができる認可とか降りるかもと思ったけど、
爆弾が落ちた、あの時代以降は、そういう雰囲気じゃなくなっちゃった。
1　そうだね。
」❶
2　ねえ。例えば、この後は、行くところは決まってるの？
1　なんか全然決めてなかったんだけどね。さっきフタバ来る前にね、二人で占い行ってきたのよ。
2　え、占い？
1　そう。今後はどこに行ったらいいかなとか気になったし、
この後どんな運命があるかなとか思ったりしたからね。
で、そこでさ、「あなたたちが、次に行くとこはここ！ ここがいいでしょう！」って言われて。
2　おお。すごい勢いだね。
1　マジでそう。びっくりして。それまでの占いは普通に進行してたのに、
2　えー。
1　急に、
「次はここ！ ここがいいでしょ！ あなた、」
「ノアです。」
「ノアさん。」
「こっちはファウナって言います。」
「ファウナ。」
「ええ。」
「ファウナさんね。ノアさん、ファウナさん。お二人とも真逆の街にすぐ行ってください。」
「真逆？」

2075年／数時間前／占いの館

❶「
4　そうです。真逆、の街。こんなね、便利で常に最新みたいに生まれ変わった街にいたって、ダメです。
綺麗でスタイリッシュ。そういう街に集まる人も、そういう清潔そうな人ばっかり。
素敵な街に住むことで、人々の心も豊かになって、
その心が次世代に受け継がれて、新たな街のヴィジョンが広がる。わけなんかない！
タワマンがボコボコニョキニョキって、タケノコみたいに生えてくる街。
ジオラマだよ？ こんな街。ジオラマっていうのは見せかけの嘘の街。誰も略歴も実態も知らない。
フェイクタウン。この街はフェイク。そこの城下町風の商店街もフェイク。
この街に城なんて江戸にはなかった。復興のために税金が投入されただけ。

立ち食いできる料理は全部違う街の名産。でしょ？

おい！

フェイク！

フェイクだろ！

フェイクなんだよ！

4、登場している

1　占い師さん？

4　・・。

1　占い師さん。

4　綴（つづり）です。

1　え。

4　名前。

1　あ、えっと綴さん。

4　はい。

1　その、真逆の街ってどんなとこですか。

4　でもねエンジョイして。

1　え、炎上？

4　エンジョイ。

1　あ、エンジョイ。

4　フェイクのこの街でエンジョイできるならそれでも良いよ。

1　ええ。

4　でもそうは見えなかったから。二人とも。

1　はぁ。

4　あなたたちはフェイクを見破ることができる。

1　随分、信じられてますね。

3　（手を挙げる）

4　はい。

3　フェイクは全部ダメですか？

4　はい。ダメです。

3　でもフェイクと、ファクトやリアルみたいな正しい側が、両立していることだってありますよ。

4　うん。でもそれをあなたたちは見破ることができる。

3　あとそれ、見破らなくてもいいんじゃないですか。

4　見破った方がいいよ。危ないよ。

私もそうだけど、みんなってね、ほぼ全て、あらゆる方向に素人なわけ。
トーシローはびくついてるくらいがちょうどいい。

2075年?／占いの館

❷「

5　問題、カブトガニの脳みそはどうなってる？

4　え、

5、登場している

5　や、海鮮、好きって言ってたから。詳しいかなって思って。

4　あ、え、いやそうね。好きだよ。詳しい詳しい。

5　お、当てられちゃうかもだなぁ。

4　そうだね。え、カブトガニ？

5　そう。カブトガニ。脳みそ。

4　え、なんか、こう、プニプニなんじゃないかな？

5　え、あ、感触じゃなくて、形よ形。

4　あ、形ね。そうだよね。そりゃそうだ。

5　そうだよカブトガニだもんね。

4　そうだよね。うーん、えっと、輪っかとか？ 天使みたいな。

5　正解！ さすが。詳しいですねぇ。

4　あ、え、本当？ マジ？ うわ嬉しい。

5　ドーナツ状なんだよね。不思議ですよねぇ。

」❷

4　そういうこと。

1　なんの話ですか？ これ。

4　こういうこと。

1　素人がびくついてるだけじゃないですか。

4　今の話、どっちだと思う？

1　え？

4　リアルかフェイクか。

1　どっちでもいいです。

4　違う。どっちでもあるの。

1　え、なに？

3　でも、そういう状態こそリアルじゃないですか。

1 リアル？

3 複雑なことで絡まっているから存在できることだってありますよ。

1 ま、それは、きっとあるね。

3 この街にある城だって、和風に彩られた食べ歩きゾーンだって、全部観光のためですよね。

観光って、光を、観るんですよ。赴いた先の明るいポイントを観ることが観光なんです。

ポジティブなものを見るためのイベントで、それ以上でもそれ以下でもない。

4 儲けることだけが正しいの？

3 いやいや、そういう話じゃなくて、言いたいのは、こんな爆心地に、その悲劇だけをね、

観に来る人がいるんですかねって話なんですよ。

4 それを賑やかさと楽しさで誤魔化して良いの？

3 誤魔化してるんじゃないですよ。

導入で、そういうことがあってもいいんじゃないかって言いたいんです。

そのまま慰霊碑とか建てて終わりよりかは、大勢に見てもらった上で、

シリアスな歴史に触れてもらえば良いじゃないですか。

5 先生、お時間です。

4 私は、当時の爆撃をこの目で見ている。知っていますか？

一瞬で、幾つもの人生と思い出が、吹き飛ばされていく光景を。

強すぎる暴力には、人は何もできない。

5 先生。

3 今日はありがとうございました。

4 行いたい葬儀を行えない。そんな時代があったんだってこと。

5 先生。

3 自分たちは、戦争なんか自分たちとは遠い話すぎて分かんない。とか思ってないです。大丈夫です。

4 よかった。でもまずは、逆の街に行ってね。

逆の街っていうのは、過去と現在と未来を区切っていない、意味や文脈が繋がった土地ってことです。

地図でいうと、このあたりですね（地図を示す）。

5 先生！

1 そこ、ちょうど、私たちが最後に行こうとしていたところです。

20??年／安楽死サポート施設

❷「

A 次の画面に進み、「はい」をクリックしてください。

B はい。

A この次の画面で、「はい」をクリックすると、致死量の薬物が注入されることを理解していますか？

B はい。

A　【最後に】同意しますね？
B　はい。
A　それでは、注入を始めます。
A　スタート。（柔らかく陽気な音楽が流れる）
・・５％完了。
・・２０％完了。
・・４０％完了。
・・９０％完了。
A　終了。お疲れ様でした。（音楽が止まる）
A　B　euthanasia。
A　って感じなんだけど、どうだった？
B　ゲームみたいな画面をクリックしていくんだね。
A　そうそう。
B　注入されている時、何を思い出すんだろう。
A　今は、何を思い出したの。
B　今はね、
A　うん。
」❷
」❶
1　もちろんさ、ここでの仕事もあるとは思うから、フタバ的に。すぐにとは言わないけど、
2　ま、そだね。現実的には少し時間もらえると嬉しいけど、でもすぐ、話つけられると思うよ。
3　ありがとう。
1　すごいね。
2　ここ一番のお局だから今。意外と融通効かせられるんだよね。
1　え、すごいじゃん。
2　そう。出勤表も自分で組んでるし。
1　え～すご。ずっと働いてるのもすごいよ。
2　まぁねえ。職場は変わったけど、同じ法人の中だから、ずっと良い感じで働けてるね。
5　お隣いいですか。
2　あ、いいですよ。

4と5が、近くに座る
二人は占い師と助手ではなく、この土地の観光客のようである
城下町で買ってきたドリンクやフードなどを飲食している

1　おっきいんだ。法人。
2　そうそう。バスツアーの後、すぐにボランティア志願して、ここの協力隊にも入って〜、
ってやってた流れのままだね。本当に。
1　すごいね。
2　でも入った当時はさ、しんどかったよー。
1　あ、そうなんだ。
2　もうさ、なんだろう。いや、自分で志願して、望んでここに参加していたわけだけど、
私は一体、この社会・歴史・生物・家族・人間の、一部であるのか。
いいや二本足で立つ個としての生命なのか。何と何の間にいるのか。みたいなさ。
1　え〜。
2　いつかいつかみんな息絶えるし、今頑張っても意味なくない？　とか思ったんだよ。最大で。
1　ほんとに？
2　そう。で、あれ？　って気づいたんだけど、食べ物の好みも変わっちゃってるんだよね。
もう豪快でパワーみたいなご飯ばっかり選ぶようになってたりしてて。
で、その時、おおきなハンバーガー買って帰ってきてたんだけど、包み紙が急に煩わしくなってね、
バッて包み紙を外して、そのまま両手でガシッと掴んで、
ソースとか肉汁とかで、でろでろにしながら手づかみで食べたんだよ。
そしたらさ、なんか、なんだろ、手づかみで食べることってすごい良くて、
ダイレクトに自分に体験が注がれてきて、すんごい感動したんだよね。
で、もうさ、こんなことで感動できるんだ自分って思ったら、ツーって涙も落ちてきて、
だからもう次の日にちゃんと上司に、休みます。って言ってさ、
それでしっかり休んで、だいぶ元気になれたから、試しに復帰したらさ、
自分のペースでいい感じに仕事に向き合うことができたんだよね。
1　いい話かも。
2　いやいや、しんどかったけどね！
1　そりゃそうだ。でもそれがもうお局になってるんだ。
2　そうー。すごいよね。
1　めっちゃすごいと思う。
2　だからなんか、その頃はさ、楽しかった頃の思い出とか、ずっと思い出してたよ。夢でも見るくらい。

2075年から数十年前／大学の部室

❶「

五人のサークルメンバーが揃って、食事をしている
フタバとファウナはこのメンバーの中で、食事をしている

5　あれ？ティラノザウルスとゴジラは違うもの？
4　え、そりゃ違うでしょ。
5　え、同じだよ。居ないんだから両方。
4　居たものと居ないものでしょ。
1　までも今の自分たちからすると、両方居ないよね。
5　ほら～。
4　いやいや一緒にしちゃいかんでしょー。ね？
3　え、わかんないかも。
4　え～。てかさ聞いて、さっきさファウナ、ベビーカーの赤ちゃんに睨まれてたんだけど（笑）
2　え、どゆこと（笑）

その数分前／大学近くのコンビニ

❷「
4　アメリカンドッグ買おっかな。
5　すみませ～ん。（ベビーカーを押している）
3　あ、すみません。可愛い。え。
4　え。赤ちゃん、ファウナのことすんごい見てる。え、睨んでる？
3　こっち振り返った。ベビーカー乗り出してきて睨んできてる。なんで。
4　え、この瞬間のどこで恨み買ったの。
3　知らないよ。
4　あ、恨んだじゃないけど、この間さ、おーちゃん先輩がさ、

その数日前／大学

❸「
5　お魚屋さんこの間、行ったらさ、すごい綺麗だったんだよね。
4　え、いいですね。南の方のお魚が多かったんですか？
5　うん、そだね。カラフルだったね。マジでどれか飼い始めようかなとか思っちゃった。
4　え、生きてたんですね。珍しい。
5　そりゃ生きてるよ。ま、でもさ水槽の掃除とか、水草とか大変そうだなって思ってさ、
4　え、いや、もしかして、アクアリウム屋さんじゃないですか。
5　え、
4　お魚屋さんって言わないでもらっていいですか。完全に鮮魚かと思ってたじゃないですか。
5　えー、なーに怒ってるのよ。

前日／スーパー

❹「

1　ちょうど昨日さ、スーパーの鮮魚コーナー行ったんだけど、安売りアピールするためにさ、

4　サザエさんもびっくり〜。

5　びっくりびっくり〜。

1　とか言ってたんだけど適当すぎるよね。

」❹

」❸

」❷

2　魚、捌いたことある？

1　え、ないかも。

2　あ、じゃあさ、魚の浮き袋ってあるでしょ。

4　うん。なんかあるよね。

5　浮くためにあるんでしょ。魚が。

2　そうそう。その空気って、どこからくるか知ってる？

3　え、確かに。

2　ずっと水の中にいるのに空気があるなんて不思議だなって思って調べたんだけどさ。

4　うん。

2　そもそも全部の魚が持ってるわけでもないんだってね。

5　あ、そうなの。

2　そう。深海魚は浮力をもたせるために、脂とかたくさん内臓に貯めることで浮いてるの。

1　へ〜。

2　だから、陸にあげると、圧力の差が生まれて口から内臓出しちゃうんだよね。

1　うん。

2　ま、ともかく浮き袋って、あれはガスで膨らんでるんだよね。

5　あ、空気じゃないんだ。

2　そう〜。だから独特なエアーが詰まってるんじゃないかな、

4　あ〜確かに、なんかお父さん魚捌く時、浮き袋を割って中身嗅いでるわ。

2　え、まって、豆知識を一瞬で上回らないで。

」❶

・・

1　で、で、フタバはついてきてくれることになった。よかったよね。

3　うん。良かった。

1　なんとか仕事も調整してくれて、三人でまた、旅に行くことになった。

2　よろしくね。（握手をする）

1　痛い痛い。

2　あ、ごめんごめん。なんでだろ。

1　うん。よろしく！

3　でもね、ごめん。ここまでの話は全部ウソ。ウソ。

私の触覚はすでに閉じてしまっているから、すでに痛みがない。

痛みがないと、本当は、安楽死をすることは、できない。

耐え難い苦痛が無ければ、施設は死なせてくれない。受け入れてくれない。

内臓などに痛みがあったらいいが、私の中身はいたって健康だ。

つまり、要件を満たしていない。耐え難い心の苦しみはあるが、死ねない。ごめん。

それを知っていた。最初から知っていた。分かっていながらノアに声をかけた。フタバも巻き込んだ。

違うって伝えていたけど、残りのこの旅では、二人に私を葬って欲しいと思う。ごめん。

生きたいのに、死にたい。

2　真逆のことが両立している状態ってあるもんね。

1　でも今はさ、旅に出ることを祝おうよ。パーティーに行く感覚で。

3　うん。もう一瞬も逃したくない。

2　瞬きしないでいこう。これが（ファウナの）最後のチャンスだもんね。

1　この瞬間が過去になっても物語は続いていくよ。

三人で一つだった人生は、またそれぞれの元に戻る。戻らないかもしれない。

でも、今は、パーティーをしよう。飛べる。パーティーに行こう。

徐々に、意味や事実から離れていく

ノア、フタバ、ファウナは、笑い合い手を取り合っている

音と光が踊り始める

1　で、ちょっと遡るけど、私たちが出会ったバスツアーはこんな感じだったんだよね。

時空間のスピードが加速していく

車窓のように風景が空間の外を流れていく

シーン②（２０４８年）

5　バスの窓が開いている。ひゅ〜〜〜。隙間から細い風が差し込んでくる。
細く素早い風は、ろうそくを消す吐息のように顔面に届く。
その瞬間、身体を一瞬で駆け巡る土地の香り。
深みとコクのあるような土の匂いが濃い。僅かに遠く、火薬の匂いがふわっと混じる。

4　あの悲劇から、まもなく１３年と言われる頃になりました。
生活は元に戻ると信じていましたが、それもなかなか叶わず、ここまで続いてきた現実があります。

時間が経つのは早いです。うちの子どもは、もうすぐ中学2年生になります。
思春期真っ只中です。今の子は、とってもませてますね。
完全に印象論ですけど、友達はみんな高校生みたいです。
なんか一個ずれているんですよね、感覚的に。あれ、大学生かな？って思ったら高校生で、
高校生かな？って思ったら中学生で、中学生かな？って思ったら小学生なんです。
情報にアクセスするスピードがどんどん早くなっていて、みんなダサいことに敏感なんでしょうか。
なんかそもそも最近って、ダサい子が少ないですよね。

ごめんなさい。すごい、脱線しました。
想定外が起こった時には、柔軟性が求められると思います。
そんな時に、自分だったらどうするか？ それが少しだけでも、できていたからこそ、
今私は、みなさんの目の前でお話をすることができているのだと思います。

で、そうですね、ここで、お昼となります。
もうすぐレストランに着きます。ぜひ足元に気を付けながら降りてくださいね。
私のおすすめは、シンプルな醤油ラーメンです。

◇◆◇　レストラン／テーブル席　◇◆◇

2　あ、知ってます。昔見てました。
5　え、ほんとですか、恥ずかしいですね。
2　いや、いいじゃないですか。面白かったし。
5　いやー、ずっと炎上してましたからね。あの人。

3　でも、アサヒさんの、その動機というか、理由しっかりしてるし、えらいですよね。

2　マジでそう思います。

5　ありがとうございます。ま、でも、本当にダメだと思うんですよ。

こういう土地を心霊スポットとしてネットで紹介する神経のなさみたいなところ、

家族でも絶対に相容れないなって思うんです。人として自分とはちょっと違う。

3　今日のツアーの話だと、さっきの、特にやっぱり、現地の人の語りというか、お話が切実でしたよね。

5　そうですね。本当に。

午前中／講演会場

❶「

1　本当に、爆心地から、海に向かって、みんな逃げていたんですよね。

身体が炎で燃える中、水を求めて、歩いていったんです。途中で息絶える人もいれば、

海に着く人もいたけど、着いたとしても海水なので、飲むとダメなんです。

あんな極限状態で、正常な判断ができる人がどれだけいるんですかね。

4　大変でしたね。

1　ジュワッとタレが焼けたあの匂い。香ばしい焼き目の匂い。

亡くなった夫はとにかく鰻が本当に好きだったんです。でも滅多に食べられるものではなく、

新年の目出度い時、年に一回、デパートの10階にある鰻屋さんに行くんです。

そこでは和服の店員さんが接客をしてくれて、

鰻を焼く様子がお店の入り口にあるレジあたりから見えるんです。

他のお客さんたちは、みんな凛として見えて、自分の振る舞いが恥ずかしいのではと、

冷や冷やしている時に、注文していた鰻重が到着するんです。

松竹梅の真ん中。竹です。重箱は赤い漆で、蒔絵が描かれています。

金の枝についた花が描かれていた気がしますが、その頃には、

お重の蓋はすでに外して、立ち上がる匂いに夢中で覚えていられません。

ふっくら焼き上がった鰻は脂とタレで輝き、タレがかかったご飯は超魅力的です。

食べ終わると、鰻だけはちゃんと値段を出してもいいな。

これで今年も頑張れるなと思えるんです。

当時は、そう、思えてたんです。

でももう、デパートもありません。

あれから私は、鰻の匂いを、どうしてか、嗅ぎたくないです。

」❶

◆◇◆　レストラン／券売機から厨房前付近　◆◇◆

4　ご苦労さまです。
1　あ、どうも。お疲れ様です。
4　なに食べられるんですか。
1　味噌ラーメンです。
4　あ、いいですね、あったまりますね。
1　はい。イオリさんは？
4　自分は、薦めといて頼まないんかーいって感じですけど、黒胡麻坦々麺です。
1　美味しそうですね。
4　実はこれ、二番目にオススメでした。
1　あぁ。

1　午後はどこを回るんですか。
4　そうですね、午前は体験されたお話を伺うのが中心だったと思うんですけど、
午後は、当時の爆撃の被害が大きく残っている場所を回って行こうかなと思います。
1　なるほど。
4　ま、と言っても、当時から時間も経っているので、ほとんどは修復されていて、
これから行くのは、あえてそのような風景を残している箇所です。
1　遺構？　遺跡というか。
4　そうですそうです。
1　なるほど。
4　ノアさんは、どうして、今回のツアーにご参加くださったんですか。
1　家族を殺してしまったんです。

◇◆◇　レストラン／テーブル席　◇◆◇

2　あれ、実はなんですけど、
5　ええ。
2　今日のツアーが終わったら、ここに残ろうと思ってるんです。
5　え、どうしてですか。
2　すごい漠然としてるんですけど、ここなら自分の役割がある気がしたんですね。
当時の自分は、ここととは縁がない場所にいて、ＳＮＳで流れてくる風景を見てたんです。
5　はい。
2　でも、自分とは縁がないと思うのは違うなって、まずは自分の感覚で縁を掴みにきたんです。
5　ええ。さっきのパートナーさんはなんて言ってたんですか。
2　伝えてないです。

5　え、そうなんですか。
2　しばらくここに残ると告げて、帰らないかもしれないです。
5　それは、なんでですか。
2　ファウナー、こっちこっち。
3　あ、いたいた。
2　スプーン遠かった？
3　や、スプーンはすぐ見つかったんだけどさ、全然フタバたち見つけられなかった。
2　あれだね。蛙化現象みたいな。
3　なっっ。蛙化とか。
2　古すぎるか。
3　古いねー。死語だねー。
2　懐かしい話をするのって大事ですよね。
5　まあ、そうですね。
3　年取ったみたいじゃん。
2　過去が増えていいことでしょ。ね？
5　あー、確かに？
3　てか今、スプーン取りに行ってる時さ、変な人に話しかけられて。
2　変な人？
3　いや、変っていうかさ、おじいちゃんかおばあちゃんか分からなかったんだけどね、
2　うん。
3　なんか、すごい話しかけられてるんだけど、良く聞き取れなくて、でその人のこと見たら、
　歯が一本もなくて、てか、髪も一本もなくて、
5　あら。
3　あんたさ、
　聞こえるんだろ。
　私は死なないよ。老いるだけ。限界まで老いる。
　これまで起きた何も覚えていない。全部の思い出と名前を忘れてからが、勝負だよ。
　歯とか、髪とか、そういう素敵な装飾品を無くしてオーガニックになってからが、勝負だよ。
3　そう言ってきたんだよ。で、ニコって笑った。笑顔が眩しい。すごくいい笑顔だった。
　歳をとると赤ちゃん帰りするみたいなことよく言うけど、マジでそう。
　ハリのない、クシャクシャの赤ん坊。笑顔は赤子よりもクシャクシャ。でも最高にいい笑顔。
3　あははとか、私言いながら、ふと足元を見たら、
　靴に釘が刺さってる。多分ね、足にね、踏んだ釘が貫通してたんだよね。
　「え、痛くない？」
　「なにも痛くない。」
　「本当に？」

「痛くなくなるよ。」

2　え、え、勘違い？　錯覚？　なに。

◆◇◆　レストラン／券売機から厨房前付近　◆◇◆

1　父は随分早くに亡くなってたんです。

4　ええ。

1　兄妹もいないので、母と二人で暮らしていました。そんな中、母が突然入院したんです。

4　はい。

1　突然の病気でした。本当に分からないですね。前日まで一緒にご飯を食べていたのに。

入院したらね、毎日、苦しい。苦しい。って言ってたんです。

4　はい。

1　ある日、母の調子が悪くなり、お医者さんに言われたんです。

もう人工呼吸器をつける必要があります。

人工呼吸器をつけるということは、延命をすることで、一度つけると死ぬまで外せないんですね。

その時、私はもう、チューブを繋げてまでも無理に生きて欲しくないって思ったんです。

で、断りました。もちろん、そのまま母は死にました。

でも、それって、母の同意は取れてないんですよ。母の命を、私が奪ったんです。

母は、まだ生きたかったかもしれないのに。

だからというわけではないけど、ここに来たのは、殺されてしまった人への思いを馳せるため。

いや、自分の整理をつけたかったからですね。きっと。

◇◆◇　レストラン／テーブル席　◇◆◇

4　昔からこの街には、信じられてきたことがあって、

あの山の裏には、楽園がある。幸せな世界がある。

この海の先には、幸福がある。楽しい世界がある。

みたいなことです。伝承のような信仰のようなことです。

寒いこの時期は、山の方も、海の方も、湯気が立ったように白んで、遠くが見えなくなります。

どっちも天国みたいになって綺麗ではあるんですけどね。

5　だからそういう意味では、土地の自然さとは真逆をいく、あの都市計画は変ですよね。

3　あー、そうでしたね。

午前中／講演会場

❶「

2　えっとですね、今こうやって、安全にはなってきて、全部土地も基礎から直したんですけど、
今上がっている計画とかみなさんはご存じですか？

1　知らないですね。

2　観光で復興するために、お城を建てマッスル。
気合いの入ったスローガンを立てて、復興キャンペーンとして、ニュースを沢山流しますヨン。

」❶

4　もちろん、私たちは反対しているんですけどね。
でもそれって住んでいた人たちの意見のはずなんですけど、
あまり受け止められてもらえないっていうのが現状で。このまま進むでしょう。

1　ええ。

4　２０３５年に戦争が終わりました。最後に海に近いこの街が爆撃されました。
その爆心地に祈念館を入れた架空の城を作るそうです。城下町風の新たな街を作り、
観光客の需要を狙い観光地として、更地のこの街をリメイクして復興を狙っているんです。

1　それって、いいんですか？

4　てかね、いつまで江戸のイメージに囚われているんですかね。日本らしさみたいなのって。

・・・

「

5　波が満ちて、潮が引いて、
波が満ちて、引いて、
満ちて、引いて、

」

◇◆◇　レストラン／テーブル席　◇◆◇

4　じゃあ、そろそろバス戻りましょうか。

1　あ、これ（ドリンク）、みなさんの取ってきちゃったんですけど、

4　あ、ありがとうございます。

1　これイオリさん。

4　ごめんなさい。

1　で、これ、フタバさん。

2　あ、すみません。

1　で、アサヒさんどうぞ。
5　ありがとうございます。
1　ファウナさんも、どうぞ。（ドリンクを渡す）
3　（ドリンクを受け取れずそのまま落とす）あれ？　え。
2 4 5　「え、大丈夫？」「あれ。」「あ〜。」
1　ごめんなさい。大丈夫ですか？
3　あいや、ごめんなさい。大丈夫です。
1　こぼれてないですか。
3　大丈夫です。すみません。ありがとうございます。

・・
「
5　旅先へやって来た時に、この旅が早く終わってほしいと思ってしまうなんて、
どうも馬鹿らしいと考えるが、それは仕方が無いと次の説明を聞けばわかると思う。
ここは爆心地だから。誰かの手で命を終えられてしまった人が大勢いた場所だったから。
旅には、ポジティブなこともネガティブなこともある。
ネガティブじゃなくポジティブな意味から旅先で「早く。終わってくれ。」って思う時も実はある。
それは、「この経験を、私の人生の一部、私だけの思い出に早くしたい。」
という欲求があるからだって最近気付いた。
旅とは、日常と離れることで、日常を意識するイベントだと思う。
」

午後／バスツアー終了後
❶「
2　ノアさんは優しすぎるよ。
1　そうかな。
3　今日で終わりなの寂しい。
1　きっともう会えない？
2　会わない？
3　会う。
1　会おうね。
2　会いたい。
」❶

ある日
❶「

２　いる？　カイロ。
３　ううん。
２　寒かったら言って。
３　ありがと。
２　（息を吐く）
３　こないねバス。

ファウナ、フタバの上着のポケットに手を入れる

２　見て見て。（息を吐く）
３　白いね。（息を吐く）
２　白い。あ、盛れてる。
３　え、ほんと。
２　角度かな。冬の日光って盛れるのか。
３　嬉しい。
２　透明感増して可愛いよ。
３　やった〜。

終演